

# 米中対立とASEAN ―「漁夫の利」か「統合の溶解」か

東京理科大学教授  
おお庭三枝

- \* 東南アジアを巡る米中の動き
- \* 米中対立に困惑するASEAN諸国
- \* 原因は米中間のパワーバランスの変化
- \* リベラル国際秩序の動揺と東南アジア
- \* ASEAN諸国の基本は多方向戦略
- \* 中国にも付かず離れずの対応
- \* 中心性を重視するASEAN諸国
- \* 現地に見る中国・一路の実情
- \* ラオスとタイにおける自立戦略の違い
- \* 中国による南太平洋進出の意味



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）  
本日は早いものでもう4年ぶりということになりましたが、東京理科大学の大庭先生においでいただきました。

先生は国際基督教大学をご卒業後、東京大学の大学院で学ばれて、その後シンガポール、ハーバートなどで研究員を経験されておられます。東南アジアがご専門でございますが、ご存じのように米中対立のおかげで、東南アジアに対する資金等も含めて、少しおかしな中国の動きもあるのかもしれない。

今日はそういうことも含めて、東南アジアの統合の行方とか、中国の経済のシュリンクにどういうふうにかかわっていくのか、あるいは日本がこれから東南アジアとどういうふうに関係し

ていくのか、いろいろな面からお話をいただけたと思います。

それでは、大庭先生よろしく願いいたします。（拍手）

## 東南アジアを巡る米中の動き

**大庭** こんにちは。今ご紹介にあずかりました東京理科大学の大庭です。4年ぶりになりましたが、経済倶楽部でまた講演させていただくことになって非常に光栄です。

私は専門が国際政治で、もともとアジアの国際政治、特に地域主義や地域協力が専門です。アジアの地域主義において、アジアの中でASEAN（東南アジア諸国連合）が果たしている役割がとても大きいので、東南アジアを主に見